市長式辞

新年明けましておめでとうございます。

平成24年の輝かしい新春に、多数のご来賓の皆様をお迎えし、津市消防出初式を盛大に挙行できますことは、主催者といたしまして大きな喜びであります。

まずは、本日ご臨席の津市消防職団員の皆様をはじめ、津市婦人防火推進委員会の皆様、各地区自治会あるいは自主防災組織の皆様そして国会議員の先生方をはじめ、国・県・市の関係各位におかれましては、日頃より、津市民の安全・安心のために、消防・防災活動に筆舌に尽くせぬご尽力を賜り、ここに衷心より厚く御礼を申し上げます。

年の瀬も押し迫った昨年末の29日、10の地域の消防団の皆様には、連日にわたり深夜に及ぶ年末夜警にお取り組みいただき、地域の安全安心をお守りいただきました。

私もすべての方面団を訪問させていただきましたが、冷たく厳しい雨風の中、どの方面団の皆さんも、微塵の揺らぎもなく、しっかりと隊列を組んで私たちをお迎えいただきました。

午後11時45分の美里方面団の巡視終了と同時に、体は冷え切っていましたが、心の中は熱い感謝の思いで満ち溢れるとともに、消防団のご活動にご理解をいただいておりますご家族の皆様にも、心の中で深く感謝を申し上げた次第でございます。

振り返れば、昨年平成23年は、日本にとって戦後最大の試練の年となりました。3月 11 日に東日本大震災が発生し、多くの尊い命が失われるとともに、そこに住む皆様の日常生活を奪う甚大な被害が発生いたしましたことは皆様ご承知のことと存じます。

今回の大震災におきまして、被災地の消防団員や消防職員の皆さんが市民の生命・財産を守るため、その崇高な精神のもと、身の危険を顧みず、津波からの災害防御活動や避難誘導活動など、果敢に災害に立ち向かい、数多くの方々がその職を殉じられたことは忘れてはなりません。

ここに心から哀悼の意を表します。

さて、災害直後から本日に至るまで、津市消防職員並びに津市職員が被災地に赴き、人命救助や消火、救急活動あるいは被災者の救護活動など、決死の覚悟を持って危険業務に従事いただいております。

後日の報告会では、一人ひとりの職員が「自分に何が出来るか、

何をなさねばならないか」を自問自答しながら、必死の思いで活動いただいたという報告をいただきましたが、甚大なる災害を目の当たりにして、基礎自治体として市民の皆様の「命を守る」という重要性を改めて再認識させられました。

私自身も被災地に赴き、被災地の市長・町長と直接意見交換を重ねてまいりました。引き続き職員の派遣等、復興のために必要な御支援を実施してまいります。

また、昨年は３つの台風が襲来をし、特に台風 12 号では、紀伊半島南部地域において、土砂災害、河川の氾濫により、多大な被害をもたらすとともに、津市におきましても、美杉町石名原地区において、土石流が発生し、家屋の損壊、橋梁の流出等の大きな被害が発生しました。

美杉小学校裏山では亀裂が生じ、現在も引き続き対策は講じておりますが、今なお子供たちが昨年３月に閉校しました太郎生小学校を臨時校舎とした通学を余儀なくされるなど、改めて、自然の脅威、災害の怖さを再認識させられる１年でありました。

こうした自然災害に対し、防災対策を進めていく上で、一番の懸案は、東海、東南海、南海の三連動地震の発生であります。

早急な対策が望まれる中で、津波避難ビルの指定、また、津市地域防災計画津波編の策定など、鋭意様々な取り組みを進めてまいりましたが、今後ともハード、ソフト両面にわたる対策を一層推進し、本市の防災力を高めてまいります。

そのために皆様方には、災害時の防火防災活動や地域住民に対する防火防災啓発及び応急手当の普及指導において防火防災意識の向上に多大な貢献をいただいておりますが、今後ともその職責をよく自覚され、引き続き御尽力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の弛まぬご精進とご努力に対して、重ねて感謝とお礼を申し上げますとともに、皆様の更なるご活躍と新しい一年が、希望に満ち溢れた明るい年になりますよう心から祈念申し上げて、式辞とします。

平成24年１月８日

津市長　前葉　泰幸